

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム はごろも (ユニット I)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホーム はごろも (ユニット I)		
所在地	〒029-4332 岩手県奥州市衣川古戸45番地		
自己評価作成日	令和2年6月22日	評価結果市町村受理日	令和2年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の気持ちや思いを大切にしながら、普段からコミュニケーションをたくさんとれる雰囲気作りを行っている。認知症状により不穏状態の時も、その方の思いや行動の裏側を理解し、理念にもある『寄り添うケア』を大切にしながら関わりを持つように心がけている。  
穏やかな環境と地域の特性、地域の方々の協力を得ながら生活できる雰囲気は他にはない特徴であると考えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人の特別養護老人ホームやデイサービス、地域包括支援センターなどと同一の敷地内にある。国保衣川診療所は特養と廊下で繋がっており、利用者の受診、特養の看護師の指導、お祭りなどの各種イベント、ボランティアの受け入れ、防火訓練の共同開催など、医療と福祉、介護との連携が図られ、効果的な介護サービスが利用者へ提供され、家族等からも信頼を得ている。また、地域の婦人団体のボランティアの受け入れ、ハロウィン時の児童との交流などの地域交流に留まらず、運営推進会議員の提案による一人暮らしの高齢者の買い物支援を通じ、地域活動の一翼を担っている。運営に当たっては、法人の基本理念と経営方針の下、グループホームの理念を職員間で共有し、毎月のお便りや居室担当による生活状況のお知らせを通じ、利用者の様子をお伝えしながら家族の意見等を聴くほか、家族的雰囲気の中、日々の生活の中で利用者へ寄り添い、要望等を聴き取り、意向に沿った利用者本意の介護サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付くところに掲示し、常に意識付けを行っている。 また1年に一度理念の実践状況を振り返る機会を設け、次年度の活動に繋げている。	これまでの事業所の理念と新たに定めた法人基本理念を施設内に掲示し、職員間で共有しながら日々の生活の中で利用者に寄り添い、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	新たに定められた法人の基本理念を受けて、具体的な介護の在り方等を職員間で協議、共有し、より充実した介護サービスを目指すことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、児童クラブやボランティアとの交流は継続して行っている。またなじみの理容店から定期的に出張していただいている。 地域に自ら出向いていく機会は少ない。	地域の婦人団体のボランティアの受け入れ、ハロウィンなどでの児童との交流、芸術文化祭りの見学を通じた地域交流のほか、一人暮らしの高齢者の買い物支援などの地域活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談等があれば対応しているが、積極的な活動は行っていない。地域の地区センターでの認知症の啓もう活動への参加打診があったが都合がつかず参加できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては入居者に話を聞いたり、委員の方からの意見やアドバイスを求めるなどしながら、サービスの質向上につなげている。	運営推進会議は、行政機関や地元の情報を把握する良い機会となっている。民生委員であるメンバーの提案から一人暮らしの高齢者の買い物支援が実現した。委員には、法人の秋の地域交流会に参加を得ているほか、文化祭でのお茶会開催などの提言と開催の支援をしていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成メンバーとして行政職員に参加していただいております。定期的な意見交換等は行うことができます。また奥州市衣川総合支所が同一エリアにあり、必要に応じて連携を図っている。	法人と奥州市衣川総合支所とは廊下で繋がっており、日頃から連携を取りあっている。新型コロナ対策用品の提供、関連対策の助言、生保事務の指導、防災ラジオの設置、各種行政情報等の提供を受けている。市主催の集団指導会や研修会にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体として身体拘束廃止委員会を組織し、グループホームからも委員として参加し定期的に検討を行っている。またグループホームとしても定期的に学習会を開催している。	身体拘束に関する委員会を設置し、毎月開催し、その内容を職員に周知、徹底し、指針やマニュアルに沿った対応に努めている。特に、スピーチロックについては、学習会を通じて研鑽を深め、日常の業務に活かしている。玄関の施錠は夜間のみで、転倒予防用のセンサーを1名が利用している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員に対して学習会を開催している。またスタッフ会議で声掛けや対応の見直しを行い、虐待につながらないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用している利用者があり、大体的内容については各職員把握しているが、権利擁護に関して学ぶ機会は少ないため、今後学習機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際などは重要事項説明書を用いて説明を行い、不明点については詳しく説明するなどの対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で事業所や外部機関も含めた相談の窓口を説明している。また入居者やご家族からは都度要望や意見等を話していただけるような関係性や雰囲気づくりに努めている。サービス担当者会議等の場も活用している。	毎月のおたよりや居室担当が作ったお知らせを通じて、利用者の生活や健康の様子をお伝えしながら、家族意見等の把握に努めている。家族の要望を受け、利用者は、洗濯物を干す、野菜を処理する、食器を拭く等のお手伝いを行うようになった。また、車いす利用者の歩行訓練等の要望を實踐し、杖歩行に改善できた事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議で意見等を吸い上げ検討し、繁栄する機会を設けている。	毎月の職員会議や日誌、申し送りなどを通じ、職員の意見等の把握に努めている。管理者は、毎年1回、職員との面談を行い、個人目標の達成状況、今後の取り組み、資格取得や研修会への参加希望などを聴いている。休憩室のエアコン導入等は、職員の提案で実現したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し実地している。個々の家庭状況を考慮し勤務表を作成している。		

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修への職員派遣を行っている。また、定期会議においてケース検討や、職員が講師となり研修を行っており、一人一人の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるいわて地域密着型サービス協会奥州・北上支部の定例会へ参加し、研修や意見交換の場を確保している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とも会って情報の収集を行い、事前にケース状況を把握している。入居後もこまめな観察やかかわりの時間を多くもち、新しい生活環境に慣れていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の連絡、その後の連絡、契約時に困っていること、今後の不安などお聞きするなど関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時の状況により必要とするサービスを助言している。また、入居決定時の状況確認の際にどのような関わりが必要か確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる場所は職員や他利用者と一緒に行動している。プランターの植物の世話や漬物の作り方などを職員が教わる場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌を月1度発行し生活の状況をお伝えしている。また、面会の際などには不安や要望を聞く機会を設け、通院や外出等必要時には協力を得られるような関係づくりに努めている。 介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催し、お互いの要望や支援の協力をお願いしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	衣川地域の方にはなじみの理容店に依頼するなどの支援ができているが、奥州市でも水沢など他地域の方には関係の継続性への支援は難しいところがある。	近所に住んでいた馴染みの方が、近くの法人施設や診療所に来た際、利用者に会いに事業所を訪ねてくれる。馴染みの理容店や美容院に出かける利用者もいるが、いつも訪問理容をしてくれる事業所近くの理容店を利用する方もおり、新しい馴染みの関係が出来ている。昨年は、利用者の誕生日に希望するところに出かけていたが、今年は休止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間には一緒に過ごすように声掛けを行い、コミュニケーションや話題を提供し交流を図るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関、ご家族からの問い合わせがあれば相談対応に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションにおいて希望や意向を聞き出す関わりの実践に努めている。また、定期会議において検討する機会を設けている。意思表示が乏しい方には選択肢をいくつか提供したり家族から情報収集したりしている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、人生の先輩としての敬意を払いながら、利用者に寄り添い、経験や知識ばかりではなく、利用者の意向に沿って、残された能力を活かしながら、お手伝いや趣味に精を出せるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集や入居後においても本人や家族、担当ケアマネジャー等から情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し把握に努めている。また業務日誌やケース記録において情報の共有を図っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催し意見を反映するよう努めている。また定期的な評価や定期会議において検討している。	計画は6か月ごとに見直し、毎月の会議で実践状況を確認しながら、居室担当がモニタリングを行っている。計画作成担当者は、このことと日誌や申し送りなどを参考に計画の原案を作成し、ユニットリーダーと調整を行った上で計画を作成している。家族へ説明し同意を得ているほか、医師の指導も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録等に精神状態や食事や排せつの状況を記録しており、それらを活用しながら情報共有を図っている。また定期会議において検討する機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、ニーズ等に対して対応できるかどうかを明確にした上で相談し、現在のグループホームでできる範囲での支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は書道の講師として地域の方に来ていただいていたが高齢となったため辞退されている。その後は慰問のボランティア団体以外に地域資源の把握が不十分なところもあり、活用までは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への対応を取っている。衣川診療所受診の際はこちらで対応しているが、それ以外の受診の際は、医師に文書で情報提供しご家族に対応していただいている。	利用者のかかりつけ医は、協力医療機関の衣川診療所15名、他の医療機関3名である。診療所へは、職員が同行しているが、その他の医療機関は精神科、皮膚科などの専門科を含め家族が同伴している。歯科は、歯科衛生士からクリーニングの指導を得ている。家族へは連絡票で生活状況を報告しながら、受診状況を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時や急変時などは併設している特別養護老人ホーム看護師と連携を図り対応している。また、必要に応じ協力医療機関との連携を図っている。		

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には医療機関へ入居中の状況を情報提供している。入院中は家族や医療関係者と情報の共有を図り、退院時には医師等から生活の留意点などの情報収集を行い、スムーズな支援につながるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、契約書や重要事項説明書等を用いて利用対象者と契約終了の説明をさせていただいている。重度化時には、現時点での状況の説明を行い、次の生活を考えていただく対応をとりながら他サービス機関への相談援助を行っている。看取りは現在行っていない。	緊急対応マニュアルはあるが、終末期の対応については、医療機関との連携を図りながら、家族の意向に沿い、病院や特別養護老人ホーム等に移送している。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを目のつく場所に置き対応している。併設している特養看護師の指示や協力医療機関の指示により対応している。定期的な訓練は十分とは言えず実践力には不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年2回の防災訓練を実施している。法人として地域防災協力隊を組織し、訓練にも参加していただいている。	年2回、防災訓練を敷地内の法人施設と共同で行っている。今年、6月に火災、秋に夜間想定避難訓練を単独に開催する予定としている。例年、地域防災協力隊7、8名の協力を得ている。発電機、備蓄食品は、特養で確保している。近々、反射式ストーブを備蓄用に購入する予定である。防災マニュアルは整備済みである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で一人ひとりの性格や心身・認知症の状態等の把握に努め、個々に合った対応を模索し、職員同士で情報交換しながらケアにあたっている。	一人一人のペースに合わせ、ゆとりを持って生活することを大切に介護に取り組んでいる。個人情報、書類は事務室に保管している。居室に入室する際は声掛けをし、入浴、排泄時の異性介助は、希望に沿って対応している。失禁などは、他の利用者に気付かれないように誘導、案内している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際など、1対1になる場面では思いや希望の把握に努めている。また日常の中で選択できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定に入居者の希望を取り入れるように努めているが、個々のペースに合わせる事がなかなか難しく集団での支援になっていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クリームや化粧水、お化粧品や整髪などの声掛けや支援を行っている。着替えの衣類を一緒に選ぶなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主なメニューは本体施設の厨房で調理しているが、みそ汁等の具材を切ったり後片付けなどは行っていただいている。またおやつ作りやホームで「昼食を作る日」なども企画し、調理をする機会を持っている。	ご飯、味噌汁はグループホームで調理し、おかずは特養から運び、メニューも特養の管理栄養士が作成している。利用者は野菜切り、下準備、テーブル拭きなどを伝えている。季節のお蕎麦、餅料理やすいとんなどの郷土料理も提供される。外気を浴びながらウッドデッキでのお茶、ダンゴ、イベント時のたこ焼き、ピクニックのお弁当と、行事と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。一日の食事や水分の摂取量は都度チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、入居者の状態に合わせた対応を行っている。必要時には歯科通院も行っている。今春には歯科衛生士が訪問してくれることもあった。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しながら適宜トイレの声掛けや誘導を行っている。一人ひとりに合わせた支援を心がけている。	利用者ごとの排泄チェック表により、動向を把握し、仕草や表情をみて、誘導、案内している。夜間に2名がポータブルトイレを利用している。自立の3名以外は、リハビリパンツにパットの併用や夜間のオムツ等で対応している。介助はズボンの上げ下げ等である。	

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保しながら、毎日の日課として体操やレクリエーションを行い、それらを通じて自力排泄を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では2日おきの入浴となっている。個々の要望に沿った支援は行うことができていないが、拒否がある際などは無理強いしないなどの対応は行っている。また必要に応じて清拭等を行っている。	週に2、3回、午後に入浴している。普通浴(1箇所)と機械浴((リフト)1箇所)は、利用者の状況に応じて使い分けている。入浴しながら歌ったり世間話をして楽しんでいる。当日、入浴を嫌う利用者には、翌日にしていただく等、無理強いをしないことにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動機会を設け、夜間にゆっくりと休んでいただけるように支援している。また寝不足や疲れがみられる際には日中も休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルに整理し、いつでも確認できるようにしている。処方内容に変更があった際は日誌等に記録し情報共有に努めている。また内服時は確実な服薬(飲み込み)まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや「できる力」に応じて洗濯物干しやたたみ方、掃除等の家事を分担し、行っている。レクリエーション等では笑ったりストレス発散等につながる機会作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年度は誕生日などに個々の希望に応じた外出を企画していたが、今年度に関しては実施できていない。 ユニットごとに地域へのお花見などのドライブに出かける機会を設けている。また家族と協力し、外部への通院や美容院へ出かける機会を設けている。	天気の良い日は、敷地内を散歩し、椅子を持ち出して日向ぼっこをしたり、ウッドデッキにあるプランターへの水遣りや菜園での収穫と、出来るだけ屋外で過ごす機会を設けている。全員参加のドライブで年4回、新緑、花見、紅葉(田んぼアート)、白鳥などの見学に出かける。職員の声掛けで、随時2、3名でドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお預かりしている小口現金のほか、事務所の金庫で個人の財布でお金をお預かりしている方もいる。必要時には使用できるようにしているが、使用する機会が少ないのが現状である。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はごろも (ユニット I)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話の取次ぎ、自筆の年賀状を出すなどの支援を行っている。また贈り物や手紙が届いた際には電話をかけ、お相手との交流が図れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や冷暖房で快適な室温に保つことなどで安心・安定して過ごしていただけるように努めている。またウッドデッキで野菜を育てたり、季節ごとの装飾や写真の掲示も行っている。なお、感染症対策として定期的な換気やハイターによる共用部分の拭き掃除を継続している。	南向きの大きな引き戸と天窓からは光が注ぎ、淡い色調の壁と木調のつくりで、落ち着いた雰囲気となっている。ロビーには、食事用テーブル、ソファがあり、ゲーム、テレビ、趣味の習字、新聞など、利用者は思い思いに寛いでいる。大型のエアコン、床暖房、加湿器などで、温度や湿度を管理し、快適な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団らん場所から少し離れた所にソファやベンチ・小上がりがあり、少人数で思いおもいに過ごせるような環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては馴染みの物を持参していただけるように依頼している。また使い慣れた物も認知症の進行により使用が困難となってきた際は、本人やご家族に相談しながら居室づくりをするように努めている。	入り口には和式の屋根がつき、旅館を思わせる。ベッド、箆笥、クローゼット、洗面台、ナースコール、テレビ端子があり、イス、衣装ケース、テレビ、ラジオのほか、親族の写真、位牌、ぬいぐるみなど、思い出の品などが持ち込まれ、居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等には迷いなく行動できるように表示を行っている。また月に一度安全確認日を受け、確認を行っている。		